

授業改善書

科目名	乳児保育 I
担当者	山本智子

授業の概要

「乳児保育 I」は、保育士として乳児を保育するために必要であるところの知識および技能の習得を支援する授業である。

特に、「乳児保育 I」では、専門職として乳児の保育を根拠に基づいて実践するために、乳児の発育、生理、心身の発達の範囲にわたる基礎を習得したうえで、これらの内容を乳児の保育の実践と対応させて実施することができる力量を育てることを重視している。

授業の問題点

「乳児保育 I」の問題点として、以下の2点を挙げる。

1. 保育の主要な専門科目の一つでありながら、入学直後に開講される科目であることから、受講生の学習意欲や態度をどのように発展させることができるか。
2. 今年度の受講生には多様な学年の学生が含まれていたため、個々の学生の成長の場であるとともに、受講生全体としての学びの場としても機能しうる各クラスの経営をどのように実現しうるか。

授業改善の課題・方策

「乳児保育 I」の授業の改善点・方策として、以下の2点を挙げる。

1. 保育士に必要な学習に関わる内発的な動機づけを高めるために、視聴覚教材を積極的に活用することにより、入学前からの学習意欲や態度をさらに高めるように努めた。
保育士が乳児の生命、生存および発達に関わる専門職であるという意識を育てるために、保育実践においてどのような課題がありどのような方策が求められるかを示したり、考えたり、検討し合ったりすることが可能な授業を複数回導入した。
2. グループや全体で活動することができる共同的な学習の時間を授業内外で相当時間数確保した。
活動では、相互的な関係において、それぞれが経験を活用して役割を果たすことができるように支援した。
活動の前後には、課題を課すことをとおして、学習の過程を明確化し、受講生とともに学習の達成度を確認できるように工夫を試みた。

その他